

図書館・図書室の思い出から

渡邊 明宏 (短期大学 講師)

これまで、自分が通った学校の図書館や図書室にはよくお世話になってきた。小学生のころには、一度だけ図書委員をした記憶もある。学級文庫の管理や図書室のカウンターの業務に、仲間と楽しんで取り組んでいた。当時は児童一人につき、「代本板」という木製の厚みのある板があった。それを借りる本があった場所差し込む、本の裏表紙の裏に貼られたポケットの「貸出カード」とカウンター「個人カード」に記入する、そしてカウンターでカードに日付などのスタンプを押しもらう……という、借りるときも返すときもなかなか煩雑なシステムだったが、それが楽しかった。そして、貸出カードを見ればその本がどれだけ借りられていたのかもわかり、本のくたびれ具合とともに「みんなの本なんだ」ということをしみじみ感じた。

そんな小学生のころが、もともと図書室に行くことが多かったように思う。そのころ読んでいた本といえば、専ら『○○のひみつ』や歴史などシリーズものの学習マンガや、ゲームブックが目当てだった。ゲームブックは、ストーリーのなかに選択肢があって、それぞれ進むページが指示される。一とおりではない展開の、ドラマチックでスリルのある本だった。そうした好きな本(マンガ)を、静かで落ち着いていた、校内のほんの空間とは一味違った図書室でよく読んだ。

次いで図書館で思い起こされるのは、保育者養成校に進学してからのこと。授業や実習に必要な、絵本や紙芝居、保育教材がしがしのために、また卒業が近くなると卒業論文の文献を探すために、大学の図書館によく通った。そこで、色鮮やかなカメレオンが描かれた表紙に惹かれて1冊の絵本に出会った(レオ・レオ二作・谷川俊太郎 訳「じぶんだけのいろ」)。返却後には自分でも購入し、受講していた演習や実習先の幼稚園・保育園で使い、今は授業で学生に紹介することもあった。

そして保育者養成に携わる今、保育現場にお邪魔することがよくある。あるとき、比較的新しい私立の小規模の保育園で「小さいですが、絵本の部屋があるんですよ」と園長先生にご案内いただいた。一面の壁と体化した大きな木製の書架と小さなベンチの置かれた、簡素だが温かみがあって落ち着いていた空間だった。冊数もさほどぎつしりではなかったが、子どもが自由に入れ、親子で自由に借りられるのとこのであった。しばしクラス集団から離れて静かに過ごす子どもたちの姿や、降園のときの姿が目につく。現在、多くの保育現場では各クラスに絵本が配置されているが、園全体としての図書室や絵本コーナーは設置基準上は必須要件ではない。そのため、こうした環境が全ての園にあるわけではない。

こうしたことを思い出しながら、心も身体も育ちの途上にある子どもたちにとって、保育室や教室、園庭や運動場だけでなく、自ら動くと静のバランスをとって落ち着ける、日中に過ごす場所として貴重であることを痛感する。そして、図書館や図書室との出会い、そこでの出会い(本や知識はもちろん、人間関係や出来事も)という視点も含め、子どもが無理なく豊かに育つていくための環境を考える必要を感じた。

『読書は趣味?』

横井 秀幸 (高校 保健体育)

「えーこの本あるんだーこんな新しい本まで……、すごい、おもしろそう!」これが、4月始めに、本校の図書館の入口に立ったときの印象です。早速、入口に展示してあった、夏目漱石の生涯を綴った『ミチクサ先生』(伊集院静著)を借りました。その後『琥珀の夢』(伊集院静著)、『そして、バトンは渡された』(瀬尾まいこ著)、『ライオンのおやつ』(小川糸著) 等々を続けて借り、毎週のように図書館に通っています。

私は読書家ではありません。どちらかというところ、本を読むことは苦手な方と聞いています。難しい本を読むと2〜3ページでウトウトということは毎度です。学生の頃は、読書感想文を書くことが大の苦手で、嫌いでした。読みたい本でもないのに、どうして読んで感想文まで書かなければいけないんだ……と思っていました。だから、本文は読まないで、あとがき、だけを読んで適当に書いて提出するという学生でした。ただ図書館や本屋さんには好きです。本を手にとると、読んでみないのに、本の世界に浸っているような錯覚をし、つい長い時間過ごしてしまいます。

私は以前、「読書=勉強」という意識が強くあり、「読書」という言葉には、「少しがんばって、身になる本を読む」といった重い感じをもっていました。少なくとも、読書が楽しいというイメージはありませんでした。名著と言われていたので買ってみたが、数ページで挫折して、ツンドクだけの本も何冊もありました。そんなある時、「趣味は読書」という言葉を改めて聞いたときに考え方を考えました。勉強のために本を読むことは仕方ないが、基本的に「読書は趣味で楽しむ」という考えにしました。だから、「読みたいと感じた本だけ読めばいいんだ! 15分読んで面白くない本は無理して読まなくていい、ただ15分は頑張つて読んでみる」こう考え、いやいや本を読むことはしなくなりまし。途中であきらめた本があっても、「この本には縁がなかった。もつと面白い本を読もう」と思うようになりまし。

私は本嫌いな人は、本当はいいなと思っっています。本が嫌いではなく、読みたい本に出会ってないだけなんです。まずは図書館に行ってみてください。本校の図書館には、あなたに合った本がたくさんあります。生徒のみならず、ぜひ一度ゆっくり図書館を覗き、読みたい本を探してください。

学内ワークスタディの学生を紹介します

学内ワークスタディとして図書館で働いている大学生3人にインタビューしました。3人とも1年生の時から続けてくれています。



左から 竹内 里絵さん(養護・保健コース2年) 後藤 圭志さん(心理カウンセリングコース2年) 高橋 菜佑さん(心理カウンセリングコース4年)

学内ワークスタディ(図書館)に応募した理由は何ですか

後藤: 本が好きでアルバイト先が本に囲まれていたらいいなと思ったからです。高校の時からこの図書館を利用していたのがあります。(後藤君は瑞穂高校の卒業生です。) 高橋: 学内でアルバイトできるのが魅力的だなあと…勉強とバイトの両立ができると思ったからです。 竹内: アルバイトを探していた時に募集のメールがきたからです。学校の空き時間でできるのがいいなと思って応募しました。

図書館で働いて良かったこと・成長したことはありますか

高橋: 頻りに図書館に行くようになりました。週2回は本

館のシフトが入っているので、行きやすい場所になりました。バスの待ち時間や空いた時間も図書館に行くようになりました。

仕事の面では、分館は1人での勤務なので責任感が身につきました。

後藤: 書架整理の仕事で、色々な本を見ることができて良かったです。普段読まない分野で、面白そうな本を見つけて借りることもできました。また、「心理」の本でも、一ヶ所に並んでいるわけではなく色々な分野(書架)に心理関連の本があることを知り、探す視点が増えました。

竹内: もともと本を読む機会がなかったけど、本館勤務のときに本を借り、翌週の勤務で返却するという習慣が身につきました。

後藤: 分厚い小説も1週間で読んで、返却しているのを見ましたよ。

竹内: 長い小説も読めるようになりました。

今後の抱負を教えてください

高橋: 図書館アルバイトの中では、学年も勤務歴も最年長なので後輩のサポートをしていきたいです。

後藤: 図書館の仕事では、カウンター業務を頑張りたいです。先生が授業で利用したい時など学生とは違った対応をしなくてはいけない時があるので、臨機応変に対応できるようになりたいです。延滞した学生への注意もキリッとした顔でしたい。(一同笑う。)

高橋: 以前、授業で使うためのパソコンを一度に20台用意したことがあったよ。

後藤・竹内: すごい私たちが焦らず対応できるようになりたい! 竹内: せっかく本が身近にあるので学生のうちに読書をして、たくさんの知識をつけて社会人になりたいです。

おすすめ本を紹介してください

高橋: 最近読んで面白かったのが、『京都船岡山アストロジー』(望月麻衣著)です。占星術が出てきて、物

語だけでなく占いも楽しめます。

後藤: 『チョコレート工場の秘密』(ロアルド・ダール著)のシリーズです。映画で観て面白かったのが、原作を探して読みました。映画には描かれていない細かい描写や情景が良かったです。

竹内: 『カケラ』(湊かなえ著)です。湊かなえさんが好きでよく読みます。この作家さんの作品は色々な視点で描かれていて面白いです。どんでん返しもあり、推理しながら読んでいます。

後藤: 竹内さんは、いつも湊かなえを借りているイメージあります。僕も好きなので、作家トークをしたことがあります。

高橋: 視点が変わる系だと、新着書架にある『予感』(清水杜氏彦著)を読んでみたらいいかも。竹内さんの好みかもしれない。(その後も、それぞれが色々な小説をすすめ合う。止まらないので次の質問にいきました。)

利用者にメッセージをお願いします

高橋: レポートを書くときに改めて思ったことがあります。インターネットではうまく調べられなかったことが、図書館のOPAC(蔵書検索)で検索したら出てきたことです。分からないことがあったら、図書館を利用して調べてほしいです。

後藤: たくさん本があって何を借りたらいいか迷うかもしれないけど…色々なところに自分の興味のある本があるかもしれない。とにかく本を手にとって、パラパラでもいいので中を見てほしいです。

竹内: 図書館はハードルが高いと思っている人も多いかもしれませんが、全然そんなことはないです。気軽に来てください!



本の装備をする3人▶